

今週の話題：

< ワクチンと生物学的製剤 >

* 専門家で構成される戦略諮問グループSAGE(Strategic Advisory Group of Experts)による提唱：

ワクチンと生物製剤のガイダンスを提供するために1999年にWHOの事務局長により設立されたSAGEは、スイスのジュネーブで第4回年次総会を2002年6月の13-14日に開催した。会議の報告は全て、後日、ワクチンと生物学的製剤局から刊行され、さらに<http://www.who.int/vaccines-documents/DocsPDF02/www720.pdf>で、入手可能。推薦事項は、以下の3項目に分かれる（改革、予防接種システム、疾病管理の促進）。

1.改革：* WHOワクチン研究に対するWHOの発案（IVR）：

IVRはWHO（熱帯病の研究と教育に対する特別プログラム、TDRを含む）、国連HIV/AIDS計画（UNAIDS）とワクチン研究及び開発活動を強化するとともに、それらの管理組織を強化している。これにより、WHOの新しいワクチン開発の促進を保証する。

* ワクチンの優先順位：

必須薬品（ワクチンを含む）の概念は、開発途上の世界において必要とされる医薬品の入手を保証することに役立っている。SAGEは世界規模のエキスパート専門委員会を作り、ワクチンの優先順位を決める仕組みを作り、予防接種のためのモデルリスト作成を支援する。

* チオマーサル含有ワクチンの使用

ワクチン安全性に関する世界諮問委員会（GACVAS）と米国医薬品研究所（USIM）は、チオマーサル含有ワクチンの安全性に関するデータを再調査をし、中毒性を見出さなかった。従って、SAGEは、チオマーサル含有ワクチンは安全な予防接種を維持するために、継続して使用することを、強く主張している。

* アジアにおけるHib抗原：

SAGEは、Hibワクチンの導入を勧める立場を再度主張している。アジア本土からの多くの研究は、Hib髄膜炎の発生率は比較的低いことを示しているが、Hibワクチンによる肺炎への影響については、継続研究が必要である。

* 小児に対するB型肝炎の定期予防接種：

B型肝炎予防接種に小児を含めていない国に対して、SAGEは、小児の予防接種によって予防可能なB型肝炎の負担の評価をすることを強く求めている

* ワクチンの確保：

SAGEは、WHOとUNICEFが計画した全体的なワクチン支給過程をより良く管理する活動を支援している。ワクチン予防接種世界同盟（GAVI）でのワクチン調達が不可欠であるが、この過程は、全ての予防接種のイニシアティブ、すなわち、定期的予防接種、キャンペーン、新ワクチンの導入や流行時の対応を含み、ワクチンの入手を保証するために従うべきモデルである。

* 髄膜炎ワクチンのプロジェクト：

SAGEは、2002年から2003年に、W135血清タイプの伝染病の流行を速やかに発見するために、髄膜炎菌血清タイプの綿密な疫学研究を勧めている。MVPによる進展を評価し、その“後押し”によりアフリカの髄膜炎ベルト地域に必要とされるワクチンを開発し、途上国ワクチン製造ネットワーク（DCVMN）に属している製造業者が、支払い可能な価格で抱合体ワクチンを生産するようにさせている。

2.予防接種システム：* 予防接種安全策の優先プロジェクトの運営委員会：

SAGEは2002年6月の第3回予防接種安全優先プロジェクト運営委員会の勧告を支持し、これまで達成した優先事業の重要性に注目し、この努力を維持し、さらに強化し、この部門の主な事業にしていくこととしている。このための詳細なプランが2003年のSAGEの会議で提案される事を要請している。

* ワクチン基金が望まれる国への新しいワクチンの導入：

SAGEは、最近の多くの国における複合ワクチンを含む新しいワクチンの導入の経験により、多数の問題に注意が向けられていることを報告している。新たなワクチンの導入が国家の予防接種活動を強化していく特別な機会を創り出している。SAGEは国家的予防接種活動のさらなる支援と強化を要求した。

* 定期予防接種の強化：

2005年のGAVI達成目標の困難を討議する中で、SAGEはWHOとUNICEFがポリオ基金不足、スタッフサーベイデータ、その他評価分析と記録について、2002年11月のGAVI評議会に発表する事を推薦した。目的は、長期に渡るWHOとUNICEFの予防接種に対する人材計画に関して、強い支持を得ることにある。

3. 疾病コントロール促進する会議：

対ポリオの技術諮問グループ（the Global Technical Consultative Group for Poliomyelitis，TCG）からの報告：

野生ポリオの伝染を防ぐという目標に対して明らかな進展が持続しており、2001年末でたった10ヶ国でポリオの伝染があっただけであった。SAGEは、この取り組みにおける諸機関の前進を、監視し報告するthe Global Polio Eradication Strategic Plan 2001-2005の標準的な客観的指標と目標の利用に注目し、支援している。

* ポリオ根絶認定後のポリオ予防接種の指針：

SAGEはポリオ根絶認定後時代のポリオ予防接種ポリシーの開発のためのプログラムの重要性を再確認している。SAGEは、WHOがポリオ根絶認可後における麻痺性灰白随炎（ワクチンによるもの、野生のウイルスによるもの）の危険性を、評価し、管理するために提案した枠組みを、さらに発展させることを推奨している。

* 母子破傷風（MTN）の除去：

SAGEは、WHOが、破傷風トキソイド（TT）/ジフテリアトキソイド（TD）問題とMNT除去状態を確認し進行を監視する適切な方法を含む、MNTの技術問題についてのアドバイスをするため技術の専門家の特別会議を開くことを、推奨している。

* 黄熱：

黄熱は最近増加している。60年前から安く安全なワクチンで容易にコントロールできる。SAGEは、9ヶ月以上の人達を対象に黄熱（YF）ワクチン予防接種のキャンペーンを推奨する。但し、WHOによる深刻な副作用に対するサーベイランスと調査は継続する。結果は2003年のSAGEに報告する。

* 麻疹：

麻疹による死亡も世界的に減少している。SAGEはWHOとUNICEFのルーチンの新生児予防接種を強く支持している。

・rubellaワクチンと混合したエアゾール麻疹ワクチンの早急な承認のさらなる調査に関して、SAGEは研究の重要性を支持し、他の麻疹ワクチンの投与法を見出す努力を強く支持する。

* 疾患コントロール優先のためのワクチンの供給：

SAGEは、疾患コントロール戦略の開発や、それらの戦略の実践計画に当たっては、高品質のワクチンの適切な供給の可能性を考慮することの重要性を強調している。更に注意深い計画・正確な予想・十分な資金・促進された疾患コントロール主導の為の継続した十分なワクチンの供給を保証する確実な需要をもった事業運営のアプローチ（改革、例えばワクチンの確保）を支持している。

<AFPサーベイランスの実施とポリオの発生率、2001 - 2002> （WER参照）

流行ニュースの続報：

<インフルエンザ>

・アルゼンチン（2002年8月31日）¹ 6月の第2週からインフルエンザB型の地域的流行が継続しており、殆どが15歳以下の子供の感染である。8月の第1週から急性呼吸器疾患の発生が人口25,000人のサン・ペテロ（ミシオン州）で報告され500人が感染した。約75%の学童が感染し、1週間の学校閉鎖がなされた。インフルエンザB型ウイルスが抗原検出で同定された。

・ブラジル（2002年8月31日）¹ インフルエンザ類似の疾患が地方レベルで発生し、小数のインフルエンザA型とB型ウイルスが分離された。殆どの症例において急性呼吸器障害症候群のために子供が入院させられた。

・中国の香港特別行政区（2002年8月31日）² インフルエンザA型（H3N2）ウイルスが散発的なケースから継続的に分離され、インフルエンザB型ウイルスより圧倒的に多い。8月の第1週目には、インフルエンザA型（H3N2）の発生が、退職者の施設から報告された。参照¹ No.35,2002,p.294、²No.34,2002,p.288

<アフリカにおける髄膜炎菌感染症の流行の予防とコントロールに対するWHO戦略に関する技術諮問会議、Quagadougou、9月23-24、2002>

特にアフリカにおける、ナイセリア髄膜炎菌W135の流行は、大きな公衆衛生の脅威であり、伝染性髄膜炎流行に対するコントロールと予防の新しい挑戦を提起する。WHOは髄膜炎コントロールの最近の経験からの教訓を再検討し、髄膜炎菌性髄膜炎に対する改正戦略を討議するために、この諮問会議を開催した。第8回髄膜炎流行コントロールの為のワクチン対策に関する国際連携グループ（ICG）、9月25-26、2002が2001-2002髄膜炎流行シーズン中のICG活動と反応と2002-2003の同時期に対する準備状況を検討し、髄膜炎菌感染症流行への最善の対応策を作成した。

（田中祐子、関戸好子、石川雄一）